

17	毎週火曜日14時からの当センターが提供している、地元FM放送局「FMヨコハマ」の番組を活用し、患者様からの「ありがとう」のメッセージの放送や献血に関する情報等を放送する。	一般県民・高校生・大学生のリスナー	若年層の視聴率が関東近県では一番のFMヨコハマを活用し、血液が不足したときなどに献血への協力を呼び掛け、血液の安定供給を図る。
18	大学献血に協力をいただいている県内の各大学の学生ボランティアを神奈川の観光名所である「横浜みなとみらい」地区のイベント会場に集め、ボランティア活動としての献血を県民にアピールする「第7回ボランティアフェスティバル(ボラフェスタ)」を開催する。	大学生(ボランティアクラブ・サークル)・社会貢献団体(ライオンズクラブ等)・プロ野球、サッカーチーム	11月開催予定、参加大学校18校(平成21年度実績14大学20サークルが参加)
19	第7回ボランティアフェスティバル(ボラフェスタ)に参加してくれた大学生を核とし、自校での献血実施時には学内での広報応援をお願いし、献血未実施大学では大学内献血の実施に向けて協力を依頼する。	献血実施大学及び未実施大学	大学生10,000人(平成21年度大学献血実績:大学32大学174回、6,655人)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	都市圏では1つの集合ビルに、テナント企業が数社入っているの、集合ビルでの献血を実施する。	集合ビルテナント企業	新規法人100社
2	現在献血に協力をいただいている企業や団体等からのグループ企業等新規企業の紹介してもらう。	グループ企業	20社
3	県内には工業団地が76団地あるが、献血に協力をいただけていない工業団地もある。そこで、工業団地の組合を通じ、課名企業の方々に集まっていただき献血への協力を呼び掛けるための推進会議を開催する。	各工業団地の組合課名企業	2回程度
4	大規模開発地区への移転予定企業の開拓	横浜みなと未来地区へ移転予定の日産、日立、ゼロックスなどの企業	10社

5	「献血協力団体一覧」を年度毎に作成し、協力をいただいた企業や団体に配布する。	新規献血協力企業及び団体(官公庁を含む)に配布し、グループ企業の紹介をいただく。	年1回発行
6	ライオンズクラブやロータリークラブ等の献血推進団体の会合に出席し、地域に根付いた献血推進活動への協力を依頼する。	ライオンズクラブ、ロータリークラブ、ソプロチミニスト協会等。	20団体(平成21年度実績12回)
7	新規企業の複数回献血へのアプローチ	新規献血協力企業・団体の参加を求める	企業・団体総数を880社にする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	神奈川県内で献血登録をしている方への献血メールクラブ会員募書送付	メールクラブ未登録の献血登録者	70,000人の依頼に対し年間会員登録登録予定7,000人以上
2	新規に登録をいただいた全血登録者への複数回献血協力依頼ハガキの送付	新規全血(400mL)登録者	年間応諾予定 3,000人以上
3	血液製剤の安定確保のために、献血登録者へ街頭献血でのご協力をお願いするハガキの送付	依頼期間内に献血実施予定の街頭献血会場を採血希望場所に指定(登録)している方で、全血献血(400mL)登録者	42,000人の依頼に対し年間応諾予定 5,000人以上
4	血液製剤の安定確保のために、献血登録者へ企業献血でのご協力をお願いするハガキの送付	献血実施予定の企業・団体に所属している方で(採血希望場所に指定している方)、全血献血(400mL)登録者	40,000人の依頼に対し年間応諾予定 16,000人以上
5	突発的な血液不足時に電話による協力依頼	血小板・全血献血(400mL)登録者	4,000人の依頼に対し年間応諾予定 2,000人以上
6	献血メールクラブ会員への献血要請(主に緊急確保が必要な場合)	血小板・全血献血(400mL)登録者のメールクラブ員	20,000人の依頼に対し年間応諾予定 2,000人以上
7	複数回献血協力者確保用ポイントカードの作成(ドナースカード)	全ての献血登録者	年間80,000人を目標
8	平日の成分献血者確保、及び複数回献血協力者確保用ポイントカードの作成(ウィークデーカード)	成分献血者	平日の平均受入人数を5人程度の増加
9	複数回献血協力者確保用献血再来カードの発行	全血献血を主体としている、神奈川県運転免許試験場内設置の献血ルームでの400mL献血者を成分献血主体の神奈川県内の献血ルームへの誘導	年間献血目標の23,000人に依頼

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	サッカー教室(横浜F・マリノス、川崎フロンターレ、湘南ベルマーレの協力で児童が練習中に保護者対象の献血実施)	幼児・小学生と保護者	各会場1教室10人程度で1回につき幼児1教室、小学生6教室の午前・午後各1回、計500人
2	新規献血メールクラブ会員の募集	献血協力者全員	随時対応
3	成分献血キャンペーン ハガキ依頼(血小板及び原料血漿の確保)	成分献血登録者	年間 80,000人の依頼 20,000人の確保
4	年末年始対策ハガキ依頼(12/23～1/10)	全血及び成分献血登録者	年間 26,000人の依頼 4,000人の確保
5	新規献血者確保キャンペーン	全血協力者(年2回)	1回2,000人で年2回計4,000人
6	ゴールデンウィーク対策葉書依頼(4/29～5/6)	全血協力者	10,000人の依頼 2,000人の確保
7	血小板型別不足による平日献血依頼	成分献血登録者	随時対応
8	神奈川県では、県とタイアップし、年2回春と秋に「かながわ献血キャンペーン」を実施	献血協力者全員	年2回(春:4/1～5/31、秋:10/15～11/30)
9	県内には自衛隊の基地等関連施設が17箇所あり、血液製剤の安定確保には欠かせない協力団体であるため、各自衛隊の献血への更なる理解と協力を得るため、自衛隊献血連絡会議を開催する。	県内17自衛隊関連施設の献血担当者及びその上司。	年1回
10	血液事業の現状と配車計画についての市町村の理解と協力を維持するため、保健福祉事務所及び市町村血液事業担当者会議を開催する。	保健福祉事務所及び市町村血液事業担当者及びその上司。	年1回
11	神奈川オリジナルけんけつちゃん着ぐるみ人形による献血ルーム等での広報	一般県民	随時対応

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

新潟県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校での献血の実施	高校生	8校
2	献血普及講演会の実施	大学生、専門学校生、高校生	12校
3	献血ルーム見学会の実施	大学生、専門学校生、高校生	10校
4	学生ボランティアの献血推進活動への参加	大学生、専門学校生、高校生	5校
5	若年層向けリーフレットの作成	若年層	60,000部

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の開拓	県内の事業所・団体	10社
2	年2回以上実施する協力事業所の確保	県内の事業所・団体	10社
3	新聞への献血実施お礼広告の掲載	献血協力事業所・団体	6月に掲載予定

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員への献血要請	複数回献血クラブ会員	会員数500名以上
2	はがきによる献血要請	ルームで6ヶ月以上の休眠献血者	応諾者1,500名以上
3	定例献血会場での複数回協力者確保	会場周辺地域の献血者	複数回協力者500名以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血PRイベントの実施	県民を対象に県内FMラジオ局の公開録音を年2回実施	献血の普及啓発、新規献血者の確保
2	ラジオとタイアップした献血推進キャンペーンの実施	県内FMラジオ局	献血の普及啓発、新規献血者の確保
3	献血ルームにおける献血者確保キャンペーンの実施	県内3ヶ所の献血ルーム	協力者の底上げ、血液不足時の献血者確保
4	定期的(週1回)な献血情報の提供	県内ラジオ局で週1回60秒程度の献血情報を放送する	血液在庫状況の周知、献血者の確保
5	協力団体への献血要請	協力団体に献血協力カードを配布	応諾者300名以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

富山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	ハガキによる献血依頼	18~29歳の400mL献血可能者	年間献血協力者数15,000人
	献血セミナーの開催	短大生、専門学校生、大学生	年間4回実施(200名程参加)
	若年層への献血啓発	小学生、中学生等	年間500名程度参加
	学生献血ボランティアと連携したイベントの実施(サマー献血、クリスマス献血)	18~22歳の若者	300名の献血協力者を確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力団体、休眠団体の拡大	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規団体を10社300名の献血者を確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	複数回献血クラブ会員の募集	400mL献血、血小板献血可能者	会員数を1,200人
	年間2回献血協力事業所の拡大	年1回の献血協力事業所	10団体増加

④その他の具体的対策(①~③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	血小板献血予約者の確保	血小板献血可能者	3人/日を目標に年間1,000人を確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

石川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	献血ポスターの募集	中学生	30校300点
2	献血セミナー開催	大学生	70人
3	学園祭での普及啓発	大学・短大・専門学校	5校
4	夏休みセンター見学会	小学生・保護者	4回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体の確保	未実施企業及び団体	10から15社を確保
2	血液不足時の協力企業の確保	要請が可能な企業	10社確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	キャンペーンによる会員募集	未登録の献血者	500人確保
2	メールによる献血要請	複数回クラブ会員	応諾者数100人以上
3	はがきによる献血要請	年1回の献血者	応諾者数500人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

福井県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	短大・大学:学内献血の増加 いっしょに献血キャンペーン	学生、教員	短大、専門学校年間1回以上 大学年間2回～4回
2	学生献血推進連盟との連携強化	学生	キャンペーン実施(年間5回)
3	血液センター見学	小学生以上、関係者	年間10回程度
4	若年層献血推進用パンフ、ポスターの作成	小中学生、関係者	ポスター:県内全小中学校へ配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体の開拓	献血未実施、休眠中および会場周辺企業団体	5社(団体)
2	緊急要請可能企業、団体の開拓	血液センター周辺企業団体	5社(団体)
3	ライオンズC、ロータリーCとの連携強化	県内全LC(28) RC:新規開拓	LC:28団体 RC:3団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	キャンペーン実施(新規課員募集含む)	クラブ会員、献血者	イベント企画(年間2回)、新規課員500人
2	メール・ハガキ依頼の活用	クラブ会員、献血者	メール:年間20回・1,500人へ依頼 ハガキ:年間応諾率30%(21年実績25.8%)
3	初回献血者:サンクスキャンペーン (お礼状や血液の現状等のお知らせ)	年間初回献血者(約3,000人)	初回献血者の50%を複数回協力者へ
4	400mL献血リピートキャンペーン	400mL献血者	年2回以上:400mL献血者の40%

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	母体限定キャンペーン実施	献血者	1日平均35人以上
2	午前中のPC確保強化	血小板成分献血可能者	採血依頼数の完全確保(午前中に60%確保)
3	市町村職員送迎:血小板成分献血	市町村職員	年間30回(1回当り5～6人)

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

山梨県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校献血の全校実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	短大・大学献血の実施	400mL献血可能者	協力者数1,200人以上
3	セミナー開催	高校・短大・大学生	3回開催 参加200人
4	若年献血者用パンフレットの作成	県内全中学校の卒業式で10,000人に配付	協力者数1,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業	15社増加
2	年1回の献血団体を年2回実施	年1回実施企業・団体	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	実協力者数300人以上
2	はがきによる献血依頼	一定期間未献血者及び前回献血者	実協力者数2,500人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血ルーム案内チラシの作成	甲府市内の移動での献血者並びに各大学・短大において10,000人に配付	献血ルームの献血者300名増
2	はがきによる依頼	一定期間未献血者	献血ルームの献血者500名増
3	新規献血協力団体の確保	献血ルーム周辺企業への献血協力依頼	献血ルームの献血者100名増
4	献血ルームの新規献血者確保 (新規来場者へ記念品配付)	新規来場者	平日の平均受入数を33人以上にする。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

長野県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血キャンペーンの実施	若年層を狙った街頭献血の実施	学生ボランティアによる街頭啓発活動10・20代構成比を40%
2	学生の送迎	高校生、短大生、専門学校、大学	200名の送迎
3	学校前での啓発物配布	高校生、短大生、専門学校、大学	固定施設の学生献血率を10%にする
4	友達紹介キャンペーン	高校生、短大生、専門学校、大学	キャンペーン中紹介による献血者を100名確保する。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規協力企業の確保	新規企業に訪問し献血の依頼を行う。	新規10社
2	休止企業の協力依頼	3年以上休止している企業を訪問し実施する。	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	複数回献血実協力者数2,000人以上
2	はがきによる献血依頼	過去の献血者から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)2,000人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	固定施設献血者の増加	企業、短大、専門学校	送迎により500名の献血者確保
2	午前中の血小板献血者の確保	官公庁職員	200名の献血者確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

岐阜県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	中学生への献血思想の普及啓発	県下全中学校	200校
2	高等学校への献血思想の普及啓発	県下全高等学校	79校
3	大学・短大・専門学校への普及啓発献血実施	大学・短大・専門学校	各校献血者数50名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血協力者30名を望める企業・団体	数社
2	献血実施会場への送迎協力	献血実施会場周辺企業・団体	1稼動平均献血者増

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	年間献血回数が一回の400mL献血者	応諾者数(実協力者数) 1,500人以上
2	事業所(企業・団体)	年間一回実施で大口協力事業所	数ヶ所

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	職専免	県・市町村職員	月二回の依頼
2	電話による依頼	該当者	必要人数
3	ハガキによる依頼	誕生月等 献血間隔に応じて	月 5,000人
4	学生の献血者送迎	大学生・専門学校生	10校

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置(表内及び指示事項記入)

①若年層献血者確保対策

静岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新成人への献血PR紙配布	新成人	10市町の新成人全員
2	高校卒業生配布誌への献血PR掲載	高校3年生	県内全高等学校3年生
3	献血セミナー開催	JRC、高校生献血サポーター、学生ボランティア	単発開催15回、通年開催3団体 延べ1,000人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体・献血推進団体の確保	献血未実施企業、団体	30団体の献血実施、後援等を確保する。
2	休止献血団体、休止献血推進団体の再開	過去に献血実施実績のある企業、団体	30団体の献血実施、後援等を確保する。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	メールによる献血依頼配信人数 15,000名
2	はがきによる献血要請	献血登録者、依頼要請承諾者	はがき送付枚数 100,000枚 承諾率20%

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	依頼要請承諾者	はがき送付枚数 100,000枚 承諾率20%
2	成分献血から全血献血への変更依頼	血漿成分献血のみ可能な献血希望者	1,650人を全血献血に変更する

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

愛知県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	中部学生リーダー研修会の実施	短大・大学生	2回以上の研修会を実施 参加人数100人以上
2	学生献血連盟によるキャンペーン実施	18歳～22歳の若年者	年2回以上の実施 参加600名以上で若年層10代20代の献血構成比35%以上にする
3	高校・専門学校への出前授業を実施し、これからの血液事業や献血について説明を行う。	16歳～18歳の学生	年間5校

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体・企業の確保	献血未実施企業・団体	休眠団体、新規団体の献血実施50社
2	優良企業・団体の年複数回の献血実施	1稼働あたり90単位以上の企業・団体	15企業・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	承諾者数(実協力者数)1,200人以上
2	はがきによる献血依頼	成分献血・400mL献血可能者	承諾者数(実協力者数)17,000人以上
3	メール会員登録推進カード配布	全献血者	メール会員新規登録6,000人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置(表内及び指示事項記入)

①若年層献血者確保対策

三重県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	セミナー開催	大学生・専門学校生・短大生・高校生	3回 120名
	大学・専門学校の学内献血実施回数 の増加	大学生・専門学校生・短大生	7校 配車20回×45人 900名
	中部統一学生献血キャンペーン	18歳～29歳の若者	10・20代の献血者構成率32%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施の事業所	20団体新規登録
	休眠状態の事業所の開拓	5年以上献血に参加していない企業	20団体以上
	成分献血協力団体の拡大	全血献血協力団体及び少人数の企業・団体	10団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数500名以上
	企業への年間回数の増加	企業内職員	400ml献血間隔、年間採血量を考慮した献血日程
	葉書による献血依頼	前回献血から一定期間の未献血者	応諾者数1500人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	成分登録者の募集	条件に合致する献血者	100人/月
	電話による献血依頼(夜間)	成分献血協力依頼可能者	100人/月
	次回予約の推進	成分献血にご協力頂けた方	100人/月
	ウィークデー献血キャンペーン	3施設において平日に成分献血協力	225人/月

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

滋賀県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	DM・メールによる献血依頼	18～29歳の400ml献血可能者	協力者数1,500人以上
2	ふれあい体験学習	小・中学生	3回開催 参加500人
3	学内献血とセミナー開催	短大・大学生	12回開催 参加840人
4	若年者街頭献血キャンペーン	18～29歳の若者	参加1,500人以上 期間中の10・20代献血者 構成比50%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規・休眠中献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規等登録10社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	母体・ルーム周辺の小規模企業・事業所	動員協力団体5社
3	献血協力団体等の確保	献血協力団体及び献血推進団体	協力団体5社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	5ヵ所
4	郵送によるメール会員募集	若年献血者	新規登録者200人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	近隣大学生への献血勧誘	母体の近隣大学生(立命・龍谷)	3人/日を目標に年間600人を確保する。
2	DM及び電話による献血依頼	母体・ルームの血小板成分献血者を含む全献血者	3人/日を目標に年間1,000人を確保する。
3	次回の予約推進	母体・ルームの血小板成分献血者	2人/日を目標に年間700人を確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

京都府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血ルームでの献血セミナー開催	小学校高学年とその保護者	7月・8月 5回開催 参加100人以上
2	18歳からの献血体験キャンペーン	府内18歳以上の高校3年生、専門学校生	期間中の参加者数 100人以上
3	献血会場外での献血セミナー(献血検定)開催	①JRCTレセン参加の中・高生、②京都市ふれあいまつり来場の小・中学生、③成人式出席者	①参加150人以上、②参加200人×4日、③参加200人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血協力企業の確保	献血会場周辺企業に対する献血協力の推進	27社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	「ワンモア献血カード」キャンペーン	献血ルームでの400mL、成分献血者	400mL献血者3,500人確保(実人数)、年間3回以上の成分献血者3,000人確保(実人数)
2	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血6カ月前の400mL献血者 年間10,700人	応諾者2,000人
3	献血依頼メールの送信	複数回献血クラブ会員	血液不足時要請2,000人/年間、応諾率15%以上
4	情報提供メールの送信	複数回献血クラブ会員	1カ月に1回程度の頻度で会員全員に情報提供
5	健康相談事業(健康教室)の実施	複数回献血クラブ会員	1回20人の参加、8回(8日間)実施
6	講演会の実施	複数回献血クラブ会員	40人参加、年1回実施
7	複数回クラブ新規登録キャンペーン	京都府内大学生、専門学校生を主体	新規登録者30人/1回、年6回実施

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血から9カ月間未献血の400mL献血、成分献血者約2,000人(11月と3月の2回に分けて送付)	応諾者400人

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

大阪府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学生400mL献血キャンペーンの実施	大学生・専門学校生	協力者数3,000人以上
2	献血おもしろゼミナール開催	小学生(保護者)	16回開催 参加1,200人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業・団体	180社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	官公庁等	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者数)6,000人以上
2	ハガキによる献血要請	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者数)15,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	30カ所
4	複数回献血キャンペーンの実施	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者数)2,000人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

兵庫県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	18歳の献血キャンペーン	県下全高等学校3年生	16～29歳の献血者構成比を27.5%まで上昇させる。
2	若年者献血キャンペーン	10代、20代	〃
3	親子見学会	小学生中高学年	100名参加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規、休眠献血協力企業・団体の確保	新規、休眠献血協力企業・団体	30団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	全献血者	複数回献血者の割合27.5%を達成する。
2	メールによる献血案内	〃	〃
3	献血会場にて複数回献血会員の勧誘	10歳代～30歳代を中心とした若年層	会員全体の70%以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	献血ルームにおける献血者サービスの充実	県下献血ルームにおける全献血者	ルームにおける献血者数110,000人。
2	採血バスにおける献血者サービスの充実	県下移動採血車における献血者	バス1稼働の単位数、平成21年1～12月、93.4を95.0に上げる。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

奈良県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	セミナー開催	高等学校、専門学校、短大、大学、団体	2回開催、参加50人
2	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者650人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施の企業・団体及び献血会場周辺企業等	24社新規登録
2	休眠事業所、団体の再開の働きかけ	休眠事業所、団体	12社登録
3	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体及び少人数の企業・団体	協力団体5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)2,500人以上
3	複数回献血キャンペーン	400mL献血可能者	平均年間献血回数を1.3回に上げる

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	予約制の推進	成分献血者	平日の予約者 5人/日 以上
2	イベント等の開催	献血希望者(センター・ルーム)	上記に含まれる

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

和歌山県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	学生献血推進協議会主催キャンペーン	大学生、専門学校生、一般	年4回、500人以上の献血者を確保する。
2	高校生献血学習	高校生	3校以上で実施し、講習後、献血体験を行う。
3	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	左記年齢を対象とした検索を行い、1000人/年に依頼ハガキを出す。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の開拓	献血協力未実施企業	新規登録10社。
2	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体による追加協力	動員協力団体5社確保。
3	休眠企業・団体の開拓	過去5年以上献血未実施の企業・団体	再開拓5社。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	電話・ハガキによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	ハガキ依頼4万人/年
2	企業・団体における年間協力回数の拡大	年1回実施の献血協力企業・団体	10社・団体開拓
3	複数回献血クラブ入会勧誘	複数回献血クラブ未加入者	1000人の新規加入

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	高校での400mL献血実施	高等学校(18歳になっている生徒)	400mL献血実施校3校開拓
2	高校出前教室の実施	高等学校の文化祭等	2校で実施

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

鳥取県 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	研修、セミナーの開催	高校生、大学生、県・市新規採用職員	6回開催 参加200人
2	若年層献血キャンペーン	18歳から29歳の若者	期間中の10代20代の構成比30%以上
3	はがき・Eメールによる献血依頼の強化。	18歳から29歳の成分献血、400mL献血協力者	年間10,000人を目標

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	緊急要請可能な企業の確保	固定施設近隣企業	10社増加
2	休眠企業団体の配車の方法等の拡大	規模縮小により献血実施できなくなった企業、団体	20社
3	事前推進の徹底	献血協力団体	鳥取・倉吉・米子市内の献血協力団体500社
4	ライオンズクラブ等の連携強化	献血推進協力団体	献血推進活動回数を12回増やす。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メール、はがきによる献血要請・イベント案内	複数回クラブ会員。	応諾率30%以上
2	街頭献血におけるはがきによる依頼。	前回採血からの一定期間未献血者	応諾率30%以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施企業。	10企業の増加
4	新規登録者キャンペーンの実施。	複数回クラブ未会員	新規会員500人の登録

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	午前中の献血者確保	固定施設における血小板献血者	午前中の血小板献血者10人を13人まで伸ばす。